

滋賀県希望が丘文化公園活性化方針の検討状況について

1 検討の経緯

- 今年度、滋賀県希望が丘文化公園の活性化方針策定に向け検討を進めてきたところ、文化ゾーン、特に改修して活用する前提で検討してきた既存の宿泊研修施設(以下「青年の城」という。)の取扱いが課題となった。
- 改めて検討した結果、青年の城を改修ではなく、適切な規模等で建替えることを前提に、さらに詳細な検討を行うこととしたい。

2 建替えに変更する理由

- 宿泊の機能については、以下の3点から今後も必要だと考えている。
 - ①現在の利用実績から公園内での宿泊のニーズがあること
 - ②自然体験やスポーツ活動と併せた利用も多く、また、日帰りではできない多様な体験が可能となること
 - ③公園全体の利用促進および魅力を最大限に引き出すための拠点として非常に重要であること
- 今年度の委託業務において、青年の城の老朽化対策等に係る費用を算出したところ、11億円程度の見込みとなった。
- 鉄筋コンクリート造の目標使用年数である65年(※)を目安とすると、建築後50年を経過した青年の城は残り15年程度の長寿命化となり、費用対効果および現在の利用者ニーズへの対応の観点から、改修ではなく、建替えた方がより公園の魅力向上に資すると判断したもの。

※滋賀県県有施設長寿命化ガイドラインにおける鉄筋コンクリート造の目標使用年数は65年以上

3 経過

- 5月18日 常任委員会へ活性化方針策定のスケジュール等を報告
(当初は11月に方針策定予定)
- 7月19日 常任委員会へ活性化方針(骨子案)を報告
- 9月15日 常任委員会県内行政調査(希望が丘文化公園)

4 今後のスケジュール

- 令和5年度: 宿泊施設の適正な規模や機能等、これを踏まえた公園全体の活性化の内容、事業スキーム案等についての詳細な調査・検討
- 令和6年度: 活性化方針策定(7月頃の予定)
- 令和6~7年度: 自然環境調査(方針策定後から1年間実施予定)
- 令和8年度: 公募